

「いのち」にむきあう研究のために - 社会的課題に取り組む大阪大学 -

20世紀は、科学技術、民主主義、市場原理からなるトライアングルを駆動力として、人類社会に多大な利便性と健康長寿、自由と平等、経済的豊かさをもたらしてきた。しかし21世紀を迎え、このトライアングルは軋みを示し始めている。原子力発電所の事故を経験し、また情報技術や生命技術の驚異的な発展を前にして、科学技術の健全な発展とは何かをあらためて問われている。グローバル化の進展による国境を越えた人やモノ、情報の移動が容易になるにつれ、社会は大きな変化を被りつつあるが、民主主義体制がそれに十分対応できるのかという懐疑も生まれている。昨今の市場原理主義的政策は富の過度な偏在と中間層の崩壊を引き起こし、人々の間に大きな経済的、社会的格差をもたらし始めている。さらに、このトライアングルの生み出した文明は、地球環境に大きな負荷を与え、その存続をすら危うくしつつある。こうした変化の中で、大学は教育研究を通じて、どのように社会に貢献していくべきであろうか。

高度な文明化を実現した現代社会には、その成熟によって生み出された解決の困難なタイプの社会的課題が数多く生まれている。例えばSDGsなどにみられるような深刻かつ複雑でグローバルな性質をもつ社会的課題の解決には、学術や科学技術の力が不可欠であるが、真の解決に至るには、異なる経験や価値観、知識・技術の体系を備えた人材や組織の力を集結させ、課題意識を共有し、共創することが不可欠である。すなわち、人文学、社会科学、自然科学、生命科学、医学、工学などの学術に関する多様な研究者が集う総合大学こそが、社会とともに共創を実現する場として機能しなければならない。

大阪大学はその精神的源流である懐徳堂・適塾以来の市民精神を引き継ぎ、大阪大学憲章第3項「社会への貢献」では「社会の安寧と福祉、世界平和、自然と人類環境の調和に貢献すること」を理念として掲げている。本学は21世紀の社会においてこの理念を実現すべく、社会的課題の解決に向けた教育研究を『「いのち」にむきあう』という標語のもとに展開する。ここにいう「いのち」は人間の「いのち」はもとより、多様な生命の「いのち」をも意味している。近代のトライアングルの軋みが脅かし、そしてまた回復が求められているのは、文明の礎としての「いのち」である。われわれが取り組むべき解決困難な社会的課題の基底にはこの「いのち」の危機がある。

この『「いのち」にむきあう』研究は、図に示すように、『いのちを「まもる」』、『いのちを「はぐくむ」』、『いのちを「つなぐ」』という三つの観点から構成される。そしてこの「いのち」の構想を羅針盤として、学内外の様々なステークホルダーと対話を展開することにより、目指すべき社会像と取り組むべき課題を共有し、全学の研究を動員してその解決を目指す。

大阪大学は、社会的課題の解決に向けては『「いのち」にむきあう』という研究推進構想を掲げ、国際的な取組とも連携しつつ、社会との共創を重視する世界屈指のイノベティブな大学として、次の100年の発展の礎を築く。これは市民精神を継承し、「社会への貢献」を理念に掲げてきた歴史をもつ大阪大学の使命である。